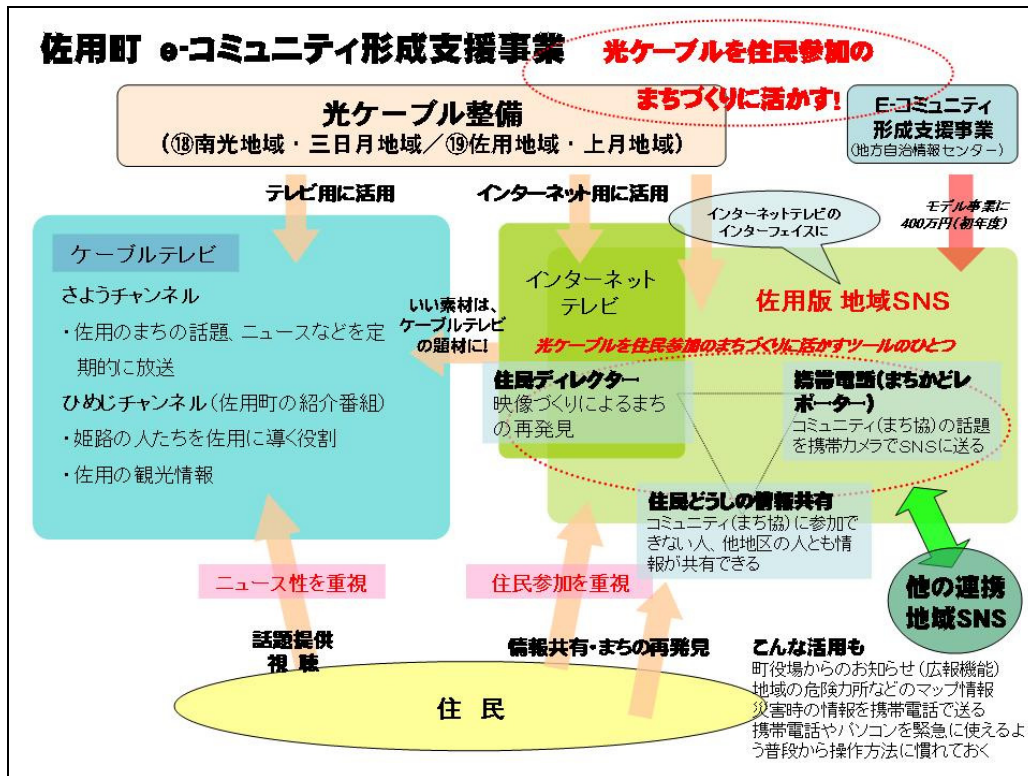


コラム5 地域 SNS（さよっち）等を使った新たな災害情報の発信

佐用町においては、地域 SNS の他、町民向けの CATV「佐用チャンネル」による地域間情報交流とインターネットテレビ「さよっち TV」による情報発信を行っています（佐用町の情報発信の仕組みは以下の図のとおり）。



特筆すべきものとしては、住民がディレクターになり、地域住民が自ら発信する番組を制作していることで、「さよっち TV」や CATV「佐用チャンネル」で放送する事により、地域の情報を住民に発信しています。番組をつくるためには、まず、「自分が伝えたいこと」を企画し、それを取材し、編集・放送するというプロセスが必要です。地域住民が番組づくりに取り組むことで、地域の課題をみつけ、地域で解決していくスキルが身につく、地域活性化につながる効果があります。

また、「さよっち」をコミュニケーションツールとして活用し、住民と住民、住民と行政をつないで、地域の活性化とツーリズム振興などに取り組んでいます。都市との交流においては、お客さんを単にもてなすのではなく、双方が Win-Win になり、息の長い交流を続けていくことが大切です。「さよっち」の交流を通じて被災時には全国から 26,495 枚もの古タオルが届けられました。また阪神間の高校と町内の高校の交流が進んでいます。このように都市とのリアルな結びつきを、地域 SNS を通じて補完することで、より太く結びつき、佐用町を第二のふるさととするパートナーの輪が広がります。

なお、今回の災害で活躍したのが、「さよっち」会員と町内外の住民ディレクターでした。住民が自らの地域の情報や撮影した映像を発信し、地域を越えた災害情報発信活動に結びつきました。日頃から「さよっち」を活用している住民の手により、被災当日から未明までに被災状況や安否確認などがブログを使って書き込まれました。また他の地域 SNS サイトの利用者により、災害情報が広く発信され、全国各地からの自発的な支援活動に結びつきました。その後もブログで被災状況などの発信が続きました。佐用チャンネルでは、被災直後の 8 月 12 日から町内外の住民ディレクターの皆さんの手により番組制作が行われ、被災箇所の生々しい映像を放送し、年末には、災害を特集した特別番組が放送されました。住民を主役として、災害情報の発信という大きな成果になって現れました。今後とも住民の皆さんと共に IT を活用して町づくりの歩みを進めていきたいと考えています。

(出典) 兵庫県佐用町役場災害復興対策室副室長 久保正彦：「光ファイバ敷設から派生した佐用チャンネルと地域 SNS 「さよっち」の展開」、情報通信ジャーナル H22 年 3 月号、より抜粋